

## 女川町復興まちづくり住民説明会（野球場仮設集会所） 議事録

日 時：平成24年1月29日（日） 13：00～15：00

場 所：野球場仮設集会所

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員  
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

### 1.挨拶 須田町長

### 2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
  - ・災害公営住宅整備事業
  - ・防災集団移転促進事業
  - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

### 3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

Q. 商店の復活を急いでほしい。

A. 女川高校の仮設商店街については商工会で事業を進めている。3月下旬までになんとかいければという話ではある。町としては基盤整備関係についての支援を行っている。

Q. 商売で仮設を回っていると、いろいろな苦情を聞く。役場で足を運んで対応してほしい。

A. 4月から体制を整えて臨んでいく。現在町民課では各地区の自治会設立等の対応をしている。

Q. 安く入れる住宅がなければ、若手はどんどん流出していくと思う。考え方を聞きたい。

A. 低額な家賃で入れる住宅。それが災害公営住宅ということになる。

今のところ、一回目のアンケートを基にすると、町内で500世帯分と言う見込み。その4割程度の200前後を、陸上競技場になるべく早く建設することを考えている。2年以内になんとか6割方の、災害公営住宅については供給をしていきたい。

Q. 働く場所を早急に整えてほしい。

A. 先行復興エリアということで市場裏を早く進めていく。

基盤について、1年から1年半。そのあとの立地まで含めて、早いところで1年半くらいでなんとかやっていけると思う。概ねの立ち上がりの支援をやっていききたい。浜のほうについては、いしい漁港の本格復帰は県内で最初になると思う。市場の整備については、県が計画を立てている。8、9月には半分くらいを使えるようになると考えている。

Q. 加工場は全滅したが、復興するという事業者の数はどれくらいか。

A. 被害額、あるいは再建するためにどれくらいかかるかについては、協会に取りまとめを依頼している。40社程度。額も相当額にのぼる。

Q. 女川で働くところを確保できないか。

A. 冷たい言い方になるが、それ決めるのは一人一人。それをどう応援できるかというのが行政の一番の使命と思っている。加工業を元通りにやってもらうというのが一番の課題解決と思う。若い人たちが根付くような就業環境をつくっていききたい。

Q. 清水1区2区3区の清水橋のところまで、住宅は建てられないということか。

A. 安全性という点から、高台移転を基本方針にしている。今後、皆さんとのやり取りの中で仮に変更する

場合に、どうやったら安全性を実現できるのかとか、その時にきちんと話し合っていく。

Q. 住宅ではなく、加工場ならいいのか。

A. 水産関係でいうと、集約して全体のコストも抑えつつ、加工業者の利便性もあげていきたいと思っている。遠くに行くよりは浜のほう、市場近辺を中心にそこで基盤整備をするので、事業運営上は有利になるかと思う。

Q. 小規模でやっていて、元の場所でやりたいという人もいるのではないか。

A. 個別に相談させてもらう案件になると思う。

Q. 集合住宅で、行政区でまとまって入りたいという要望があるがそれについてはどうか。

A. 大きい土地にまとまった数をとという配置になると思う。公営住宅の性格も含めて、ここに建てますから、この地区の方々だけが入居対象ということにはならないと思う。ただ、いろんな意見が出てくると思うので、進める中で、優先順位等のやり方を検討していきたい。

以 上